

Title	資本の実体に就て (承前)
Sub Title	
Author	堀切, 善兵衛
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1914
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.8, No.9 (1914. 11) ,p.1122(28)- 1150(56)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	論説
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19141100-0028

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

資本の實體に就て(承前)

堀切善兵衛

三

吾人は前號に於てベムパウエルクの研究に原き近世經濟學上資本とは何物を指示するやに就きて大體の觀念を説明したり若し吾人が更らに歴史的に資本の實體が果して何物たるやを考究するに於ては其意義は益々明瞭疑を容れざるに至る可し。

人類の經濟的歴史を遡及すれば吾人は何等の資本なくして生々したりし時代を想像するを得可し即ち彼の最も野蠻なる原始的人類が其生存の第一條件たる食物の攫得に際し何等の器具をも使用すること無かりし時代即ち是れにして Bücher 氏は其名著 Die Entstehung der Volkswirtschaft 中に於て述べて曰く、

Gewiss nimmt alles wirtschaften seinen Ausgang von der Nahrungsgewinnung, und diese ist durchaus von der örtlichen Verteilung der Naturgaben abhängig. Von Anfang an war der Mensch zunächst auf Pflanzliche Nahrung angewiesen, und überall, wo Baumfrüchte, Beeren, Wurzeln zu erlangen waren, hat er zuerst nach diesen gegriffen. Im Nothfalle wandte er sich auch kleinen Tieren zu, die roh verzehrt werden konnten. Muscheln, Würmern, Käfern, Heuschrecken, Ameisen usw. Auf stehter Nahrungssuche, wie die Tier, verschlag er im augesblick, was er fand, ohne für die Zukunft vorzusorgen.

斯の如きは最も野蠻なる原始的人類の生活状態にして恐らくは今日世界に生存しつつある最下級の蠻民と雖も實際には今少しく進歩せる状態に在るやも知る可らず殊に人間の生命を維持せんが爲めに一定量の鹽分を必要とするは疑なき所なるが草根果實のみを以てしては之を得ること極めて困難にして食鹽の製法を知らざる野蠻人は唯肉食に依りて此缺乏を充すの外なきが故に彼等が肉類に對し非常の慾望を有し時に人肉と雖も敢て辭せざるものあるは往々にして然る所なり而して最初彼等の野獸を捕ふるや全く赤手空拳を以て之に當り或は唯

徒らに獲物を追及して其疲勞するに乘じ之を捕へたりしは明白にして今日と雖も極めて粗末なる武器をのみ使用する蠻民は最初是を用ひて動物に一撃を與へ然る後其斃るゝに至るまで之に追走するの常なり。彼のオーストラリア、ポリネシア、ニューゼーランド等の土人は今日尙弓箭を用ゆることを知らず、故に鳥獸を捕へんが爲めに非常の勞苦を要するは世人の知る所なり、然るに是等蠻民にして一度弓箭の利用を知るに至らんか同一目的を達せんが爲めに其勞力を節約すること非常なると同時に、短時日の勞力を以て従前に比し極めて多量の獲物を得能ふに至る可きや疑を容れざる可し、彼の河海の沿岸に居住する原始的蠻民若くはエスキモー人種等が釣針若くは極めて粗末なる漁網の類を利用するに依りて如何に其勞力を節約しつゝあるか亦世人の熟知する所なる可し、さればエスキモー人の如き釣針を以て非常に貴重なる財産と見做しつゝ有りと云ふもの決して偶然に非らざるなり、而して蠻民の所有する是等の弓箭若くは釣針等は彼等に取りて立派なる資本たるのみならず人類歴史の上より云ひば決して今日の蒸氣電氣の諸機械にも劣らざる有力なる生産要具の發明たりしなり。

然れども是等の蠻民が矢の根を作り、若くは極めて簡單なる裝飾品、器物等を作るに當りても其幼稚なる智識と技術とを以てしては非常の時日を必要とするは疑なき所にして Bücher 氏は其二三の例を擧げて曰く、

Die Herstellung einer jener feinen Matten, wie sie die Samoaner aus Padanus anfertigen, erfordert mitunter ein ganzes Jahr. Um ein Stück Zeug aus Rafafaser zu weben, braucht man in Madagaskar oft mehrere Monate. Ebenso lange dauert es in Südamerika, bis die Indianer eine Hangematte fertig bringen. Das Schleifen und Durchbohren der milchweissen Quarzstücke, welche die Vaupes in Brasilien um den Hals tragen, ist oft das werk zweiter Generati onen.

器物の製作は斯の如く困難なり、同時に其不完全なる武器を以てしては目的物を斃すこと決して容易ならざるが爲め蠻民の間には一部落若くは一種族擧つて狩獵に従事し或は共同して漁具の作製に従事するが如きこと敢て珍しからず、斯の如き場合には其漁具は公共の資本と見做され其獲物は共同に分配せらるゝは言を俟たざる所なる可し、ビツヒャー氏は曰く、

Da diese Jagdart unter Umständen aber sehr gefährlich werden kann, so hat man die verschie-

densten Fangmethoden ausgedacht, oder es wird bei direktem Angriff auf das wild die Jagd von ganzen Stämmen oder Dorgemeinden gemeinsam betrieben.

Das gleiche ist vom Fischfänge zu sagen, die nur durch die Arbeit vieler hergestellt und gehandelt werden können. Die Neuseeländer z. B. flechten Netze von 1000 ellen Länge, die beim Gebrauch Hunderte von Händen bedürfen.

斯の如くにして弓箭其他狩獵の道具若くは漁具等は原始的土人に取りて殆んど唯一の資本たりとは雖も彼等は常に必ずしも之を以て生活資料の擷得に用ひたるに非らず、換言すれば生産的用途にのみ之を使用したるには非らざるなり、即ち他の種族を攻撃し若くは其襲撃を防禦せんが爲めの武器として之を用ひたりしは云ふまでもなき所に於ては、斯の如き場合に於ては弓箭は決して資本なりとは稱す可らず、何となれば生産及び經濟とは何等の關係を有せざるを以てなり、されば經濟學者の多くが資本を解釋して或貨物が資本たるや否やは貨物其物の特質に依るに非ずして寧ろ其所有者の意思に依て定まるものなりと稱したる其説は立派に此處に當て嵌るものなりと云ふ可し、例へば Rauh 氏 Lehrbuch d. Polit. Ökonomie

中に於て Gesammelte Erzeugnisse, welche noch nicht dem Genuss oder Erwerb gewidmet sind, gehören weder zu den Genussmitteln noch zum Kapitale und sollten als unbestimmte Vorräte aufgeführt werden, doch pflegt man sie insgesamt zu dem Kapitale zu rechnen と稱し Dietzel 氏 其著 System der Anleihen 中に於て貨物の資本たりと否やは貨物固有の性質に由るものに非ずと稱し Schäffle 氏 亦 Das Kapital bedeutet nur die Produktionsmitteleigenschaft der Güter, die produktive Zweckbeziehung. Ohne diese Zweckbeziehung ist kein Ding Kapital, mit ihr jedes, wenn es dieser beziehung überhaupt fähig ist. Wenn man nur festhält, dass Kapital die produktive Zweckbeziehung eines Gegenstandes bezeichnet, so findet man leicht den Ausweg aus allen Streitfragen über die Kapitaleigenschaft, worüber zusammengekommen Dutzende von Bänden geschrieben sein mögen. と斷言したるが如し、勿論貨物の種類に依りては資本として之を用ゆるの外普通其用途なきものあり、例へば蒸氣機關の如き之なり、然れども蒸氣機關其物も第二次第三次の用途に依りては之を享樂用に供し得ざるに非らず、即ち之を用ひて温泉を汲上げて遊樂の便に供するが如き場合是なり、故に財貨は其所有者の意思と用途とに従ひ或は資本となり、或は享樂財たるに過ぎざることとは大體に於て間違

なく彼の蠻人の弓箭の如き太古の時代より早く既に此道理を説明しつゝあるものと稱するを得可きなり、今日文明世界に於ても獵夫の所有する鐵砲は資本たるも兵士の携ふる同一物は決して其資本と稱するを得ざるなり、されば Schmolier も亦曾て所有者の意思と用途とに依りて資本の定まるものなりとのシャツフルの議論に賛して *Eines der glücklichsten und tiefsten gegen die stofflich technische Begrenzung des Kapitalbegriffs gebrauchten Argumente.* と稱したるもの故なきに非らざるなり、而してこは吾人が前節に於て資本は極めて弾力性に富むものなるが故に經世家は須く此弾力を利用して單純なる財貨を變じて常に資本たらしむるを要すと論じたるものと相一致する所なり。

四

蠻人が狩獵の爲めに使用する弓箭は彼等に取りて資本たること前述せる所の如し、而して此弓箭を製造するが爲めに少なからざる時日を要す可く彼等が其製作に従事しつゝある間生命を支ふるが爲めに最少限度の住所と衣類と食料とを必要とするは明白なり、殊に彼等の住所と衣類とは殆んど云ふに足るものなく、熱

帯地方の土人に取りては衣類の如き或は絶対に其必要を感せざるやも計り知る可らずと雖も然も食料其物に至りては必ず之を備へざる可らず、就中彼の金屬の使用法を解せざる亞米利加土人の如き獸類の牙若くは燧石等より銳利なる矢の根を作り出す其爲めに多大の時日を必要とするは疑ふ可らざる所にして此間彼等を養ふ生活資料は何物よりも必要な可し、換言すれば此一定量の生活資料が蓄積せらるゝに非らざれば弓矢の如き生産用の道具は遂に製作せらるゝの日なかる可し、勿論蓄積せられたる生活資料中には生産の道具を作る間彼等を支ふるが爲めに貯へられたるに非らずして唯單に豊富に之を取得したる場合に他日の缺乏に應せんが爲め之を蓄積したるに過ぎざるものもある可し、斯の如きは恰も蠅蟻が夏期に食料を蓄積して冬日の食糧に供すると何等撰ぶなく富の貯蓄と稱するに障げなしと雖も未だ以て資本の名を附與し得可きに非らざるなり、此貯へたる富の中よりして直接生産の爲めに若くは生産の手段を製出するに要せらるゝ其部分と、單に口腹の慾を満さんが爲めに必要な其部分とは明白に區別するの必要あり、而して吾人は前者をのみ資本と稱し、後者は之を資本より除外し去る

を以て至りと考へざるを得ず、

經濟發達の極めて幼稚なる時代に就きて觀察せんか自然と勞力との二大要素の間に介在して其働を爲す所の所謂資本は生産の道具と一定の生活資料との外に何物も存することなし、即ち近世の經濟學者が資本の網目中に抱合せしむる金錢も商品も原料品の蓄積も製造工業場も商店も一切存することなきが故に問題は極めて簡單なり、然るに社會進歩し經濟の發達すると共に資本の種類と其量とは漸次増加するに至り殆んど其停止する所を知らざるの有様なり、殊に人類技術の進歩と共に生産の道具は非常に複雑となり且つ巨大なるに至るは言を俟たざる可し、例へ三越の新築建物は同會社に取りての資本たるや明かにして之を完成せしむる爲めに二十萬人の勞力を費したりと云ふに非らずや、此他船舶の如き蒸氣機關の如き非常の勞力と時間とを以て始めて製出せらるゝに至るは云ふまでもなき所なり、又彼のパナマ運河及スエズ運河の如きも鐵道が資本たると同じ意味に於て資本たるが之を完成せしむる爲めには如何に莫大なる勞力と日數とを費さざる可らざるかは想像に餘りありと云ふ可し、而して斯の如く資本が其形式

に於ても實質に於ても巨大となり精巧を極むるに従ひ其利用より生ずる生産の増加も亦從て莫大なるに至るは明白の理にして實に資本の増加と其發達とは近世經濟界の特徴なりと云ふを得可し。

彼の赤手空拳を振つて鳥獸を捕獲したりし蠻人と既に弓箭の利用を習熟したる種族とを競争場裡に立たしめば前者は到底後者の敵に非らざると等しく今日の經濟社會に於て電氣蒸氣の機械を具へ鐵道船舶の便宜を有する者と何等近代的資本を具有せざる者との經濟的競争は到底同日の談に非らざるや明なり、されば一國としては務めて發達したる資本の實體を國內に充實せんことを期し、簡人としては何人も他人より優秀なる資本を備へんことを欲せざるは非ざるなり、然れども近世資本の實體は極めて精功の域に達せること前述せる所の如くなるを以て智識の進歩後れたる國民は容易に自ら之を製作するを得ず、同時に其製作に多大の勞力と費用とを要するが爲め簡人の大多數は自ら之を所有するを得ずして資本の大部分は一國內の比較的少數なる階級に依りてのみ所有せらるゝに至る可し、斯くして資本的階級と非資本的階級との分離を來たし爲めに社會問題の

發生を促すに至る然れどもこは吾人の茲に論せんと欲する所に非ず。

人類の技術が愈々進歩して有力なる生産上の道具機械等を製作するに至ると同時に自足自給の孤立經濟は交換を目的としたる生産となり。物々交換は貨幣を使用する賣買の時代となり、更らに進みて貨幣の代用物たる信用取引の時代に入るは經濟上の事實なり、而して既に貨幣經濟の時代となれば生活資料の保存は貨幣の形に於て最も善く其目的を達し得可きが故に未開時代の人類が恰も螻蟻の食糧を蓄積したるが如く實物を以て生活資料を蓄ふることをなさずして貨幣の形に於て之を貯蓄するに至る可し、同時に貨幣は其本質上何時なりとも所有者の撰ぶ所に任せ有らゆる貨物と交換せられ得可きが故貨幣の蓄積者は即ち資本の蓄積者と見做して差支なきなり、然れども貨幣と資本とを同一視するの誤りなるは凡ての財貨を資本と見做すの不當なることなし、彼のベムバウエルクが貨幣を以て社會的資本の一に數へたるは其著書中に説明したるが如く

Money is not a tool of production but a tool of Exchange. Still, I think it correct to put both Conceptions under Capital. — So just as every body would include among instruments of

production all Capital the horse and cart which assist the peasant in carrying in his grain and wood, must we reckon as Capital the object and apparatus of that more extensive "leading in" of the national harvest—the conveyed products, the streets, rails, ships, and the Commercial tool money. It may be noted, besides, that those Commercial roundabout ways, arising out of the deviation and organization of labour, rank, as regards the advantage they confer, along with the other technical round about ways.

この理由に原くものにして要するに商業に必要な道具たること道路鐵道船舶等と同じ、而して一般的商業は生産事業に外ならざるが故是に必要な貨幣も亦資本なりと云ふに在り、さればベムバウエルクが茲に貨幣と稱したるは専ら交換の媒介價格の寸度としての貨幣を指示したること明白にして此目的以外に使用せられたるもの即ち守錢奴が秘密に貯藏したる貨幣の如きは單に金銀其物に對する直接所有の欲望を満す爲めか但しは財貨保存の一便法として是を貯藏するに過ぎざるが故斯の如きは決して資本中に算入するの意味ならざること敢て想像するに難からざる可し、而して彼の蒸氣機關工場商店の如きは殆んど常に生産

の用途に使用せられて享樂用に使用せらるるは稀なりと雖も金錢は是等の物と頗る其性質を異にすることを記臆せざる可らず、換言すれば金錢は資本としての其彈力最も強大なるを知らざる可らず、現にベムパウエルクは効用動物を資本に算入するに當りて *Employed in Production* なる制限を附し以て凡ての有益なる動物は必ずしも全部資本に非らざることを明にしたり、果して然らば貨幣中には生産又は營利の爲めに使用せられざるものあるに拘らず其全部を資本なりと認めて差支なかる可きか、否な貨幣は以て生産に使用する牛馬を購ひ得ると同時に自家の行樂用に供せんが爲めに或は競馬場裡に於ける賭博用の馬をも購ひ得るに非ずや、或は又貨幣中には獨逸がスバンダウ金庫中に貯藏せる數千萬圓の軍用金の如き物さへあり、こは平生に於て何等生産又は交換の用に供せらるゝに非らず其目的は最初より軍事用と定められ極めて不生産的不經濟的なる用途に充てられつゝあるものなれば斯の如きものをも尙資本中に算入するは愈々以て非論理なしと評せざるを得ざる可し、故に吾人は貨幣の全部を以て富なりと爲すに於て、殊に最も便利にして貴重なる財貨なりと云ふに於ては何等の差支なしと認むれど

も其全部を以て直ちに資本なりと云ふに至りては遂にベムパウエルクの不用意を嘆せずむばあらざるなり、タウシツクは貨幣の死藏が現在印度に於て若くは往昔佛國人の習慣として廣く行はれたれどもこは資本に何等の關係なき事を指示して曰く、

Notwithstanding the peace and security which British rule has long maintained, the habit of putting accumulated means into this form has continued in India to our own time. In France for a long period preceding the French Revolution, the peasantry—those among them, comparatively few, who had anything at all in the way of a surplus—put away coins, one at a time, hidden in a chimney or garret, until they had accumulated enough to buy a scrap of land.—No addition to capital was thereby promoted. Nor was there any addition to capital even when the accumulated coins were brought out for the purchase of land.

吾人は富の一部が貨幣たるが如く貨幣の一部が資本なりと斷せざるを得ざるなり、但し今日の經濟社會に於て如何なる富をも貨幣に換え得らる可く、又如何なる貨幣も之を資本たらしめ得可きや論なきなり、

五

内外債の所有者は箇人的資本の所有者なりと云を得可し、何となれば其所有する證券は交換價値を有するが故彼に取りて財貨たると同時に一定の収益を彼に與ふればなり、然れども政府が箇人より募集したる其資金を以て不生産的用途に供したる場合には、若くは他國に對し戦争の償金として之を支拂ひたるが如き場合には資本の實體は消滅し去る可きが故に公債の所有者は單に政府に對し原本及び其利子に對する請求權を有するに過ぎず故に其所有する證券は社會的に資本の實體を伴ふことなし、然も政府は必ずや其利子と原本とを支拂ふの義務あるが故他の資本利用より生じたる所の収入を以て之に充當せざるを得ず、例へば浪費者が高利貸より借財を爲して其原本は之を消費し盡したるに拘らず利子と元金とは必ず償還の義務あるが故祖先傳來の不動産より生じたる収入の一部を割きて其利子に充當し若しくは其不動産を償却して元金の返済に當つるの止むを得ざるに同じ、政府が戦時公債の利子拂に充當する資金は租税其他の政府事業より生ずる収入を以て是に當つるの事實は尙浪費者が其遊蕩費に投じたる借入金

の利拂に祖先傳來の田地よりする収入を以て充當すると何等異なることなく夫れだけ一國の財源を損耗するに止まるのみ、況んや一國政府が外債に依りて戦争の費用に充當したるが如き場合に於てをや

戦費を外債に求めたる場合には一時貨幣の收受を見る可し、然れども此貨幣は元來不生産的用途に充つるものなるが故に正しき意味の資本輸入と見做す可らざるは勿論なり、唯政府が斯くして外國に於て募集せる資金の一部を國內に輸送し是を以て兵器彈藥の製造に充て職工の勞銀として支拂ひたりとせんに其兵器製造者若くは職工等が其得たる所を蓄積して將來の生産又は營利の用に供したる場合に於て初めて先きの外債は間接に一部分資本と成り得るに至る可しと雖も然も戦争の費用として募集したる外債其物のみを以てしては未だ何等資本に關係なきものと稱せざるを得ず。

斯るが故に彼の日露戦争中に我國が歐米市場に於て募集したる外債は之を資本と見做すこと能はざるや勿論なり、然れども其中の一部は一定の經濟的過程を通じて後我國民の資本たるに至りしもの亦存在したりしことは之を否定す

可きに非らざるなり、論じて茲に至れば吾人は經濟上の推論の如何に複雑にして其關係の微妙なるやに思ひ至らずむばあらず、畢竟經濟論に於て容易に獨斷的結論を憚るは其關係斯の如く複雑なるを以てなり、彼の經濟の理は唯一のみと稱して以て得たりと爲すが如きは思はざるの甚だしきものと云はざるを得ず。

然りと雖も大體に就て之を云ひば軍事費若くは不生産的用途に用ひたる外債は外資の輸入と混同す可きものに非ず、蓋し外資輸入と稱する以上は必ず直接に資本の輸入たることを必要條件となすに反し、不生産的外債は資本の性質を有せざる物資の借入れに外ならざればなり、尤も日露戰爭の如きは國家の存亡を賭して戦ひたる一大事變なりしが故戦捷を期するが爲めには如何なる犠牲をも辭す可らず、從て此戰爭の遂行の爲めに必要止むことを得ずして起したる外債は我國に取りて非常に貴重なるものなりしは疑を容れず、然れども其貴重なる所以は主として政治上及軍事上に存する次第にして經濟上より之を論ずれば寧ろ無きに加かざりしと云ふに過ぎざるのみ、さりながら一國一社會に取りては經濟其物よりは遙かに重大にして且貴き幾多のものを有する中殊に國家の獨立國民の名譽

等は最も大切なるものなるが故、之を救はんが爲めに經濟を犠牲に供したればとて何等の妨げ有ることなし、況んや是を機會として國家の信用増大し、富源を擷得し、貿易の擴張を來したるが如き經濟的利益も亦之に伴隨するに於てをや、されば日露戰爭の費用を外債に求めたるは嚴格なる意味に於ける外資輸入に非らざりしとは雖も然も之に依りて將來真正の意味に於ける外資輸入を促す動氣たるに至りしは國家の爲めに喜ばざるを得ず、蓋し該戰爭以前に在りては我國の海外諸國に於ける信用極めて低く歐米市場に低利の資本存するもの多かりしに拘らず其我國に輸入せられたるものは殆んど云ふに足らざる少額にして英佛人等の中には日本の國名をだに知らざる者も有りし有様なりしに此戰爭に依りて日本は普く世界に紹介せられ、英佛米獨の諸國民にして我國に同情を寄せ我軍事公債を買入るゝもの頗る多かりしが故茲に初めて彼等をして我國に對する投資に注意を拂はしむるに至り、我國の外資輸入の上にターニングポイントを劃するに至りしなり、是れより先き日清戰爭に依りて我國の聲價は或程度まで高められ、續で金貨本位の實施を見るに至りしかば爲めに歐米人の放資に便宜を與へたること少

なからず、其結果明治三十二年及三十五年に於ける合計六千萬圓の政府公債の賣出、大阪、神戸、横濱、三市債の成立を初めとし、民間の事業に於ても九州、山陽、北越等の鐵道會社は多少外資を輸入したるもの、是れなきに非らざりしも、然も日露戦争の大外債募集以前に在りては、其金利も高く又公衆應募は極めて少部分にして多くはシンジケートの負擔に歸するの常なりしなり。

然るに戦後に於ては、獨り政府が英國市場に於て資金募集に便宜を得しのみならず、米佛獨白蘭瑞の諸國民にさへ我國に對する投資の念を抱かしむるに至り、其結果政府は内外債の借換整理の爲め若くは鐵道短期公債の類を倫敦、巴里、紐育、伯林等に於て募集し得たるのみならず、地方債としては東京、横濱、大阪、京都、名古屋等に於て電氣、瓦斯、水道等の事業を起さんが爲め盛に外資を輸入するあり、殊に民間の外資輸入は長足の進歩を來し、各實業會社が社債の形式に依りて外資を輸入するもの漸く盛なるに至れり、即ち北海道炭鐵會社、關西鐵道會社、南滿鐵道會社、日本興業銀行、京濱電車、富士製紙、東洋汽船、鐘淵紡績、箕面有馬電鐵、松井モスリン、日清紡績、東京瓦斯、寶田石油、東京紡績、日本製綱所、横濱ドック、千代田瓦斯、博多電氣軌道、鬼

怒川水力電氣、北港製糖等即ち之にして思ふに、此形式に依る外資輸入のみにて既に巨額に達するは疑を容れざる所なり。

加之我國威の發揚と共に我國大資本家の信用も漸く歐米人の認識する所となりし、其結果三井、三菱等の手を通じて手形割引の形式に依る外資輸入も亦開始せらるゝに至れり、こは多く短期の融通に係るものなりとは雖も、然も繰返して其融通を得る場合には全體に於て尙ほ長期の借入と何等異らざる結果を生ず可し、今回歐洲の戦亂に際し例のモラトリアムの適用を受けて一時支拂期限を延期せられたる此種の負債は略ぼ四千萬圓に達したりと云へば、又以て此種の形式に依る外資の輸入も一簾の巨額に達しつゝあるを知るに難からざる可し。

以上の内外外人の共同事業經營の形式に依る外資輸入も日露戦争後頓に増加するに至りたるは明白なる事實にして例へば日英銀行、日佛銀行、製鋼會社等を初めとし、各地の鑛山等にも此形式に依りて外人の資本が投資せられたるもの少なからず、之れ亦今回の戦争に依りて其影響を蒙り殊に外人が資金の大部分を供給しつゝ有りし鑛山の如きは一時事業を中止し多數労働者を解雇するの止むなき

に至りしもの存在ること世人の既に熟知する所なる可し。

斯くして日露戦争後滔々として流入したる外資は殆んど皆真正の意味に於ける資本たらざるはなく其利拂は此資本を利用して生じたる其収益を以て之を償ふに餘りあり勿論中には彼の鬼怒川水電の如く事業殆んど失破に終らんと稱せらるゝもの無きに非ずと雖も然も投資資本の全部が常に成功す可きものに非らずして十に一二の失敗に終るもの有りたればとて別に怪むを要せざる可し。

世間には都市其他の電気事業に外資を利用するは直接生産事業に非らざるが故斯の如きは不可なりと論ずるもの無きに非ず然れども電気會社にして其電氣を動力として供給する場合には石炭の代用物を供給するものに外ならざるが故之れ直接生産事業なりと稱して何等の差支ある可らず又點燈用に之を供給する場合にも同じく石油若くは瓦斯の代用物を供給するものに外ならざるが故之亦直接生産業と稱するも敢て不可なきなり唯下水事業の如きは直接生産業とは稱す可らず故に外資の輸入に手加減を加ふる必要ありとせば此種の事業に要するものは成る可く之を差控ふるを可なりとす可し然も事實に於て未だ此種の目

的を以てせる外資輸入は之れ有りしを聞かざるなり。

六

資本の實體が大部分貨物にして金錢は其一部分を占むるに過ぎざること既に明白疑ふの餘地なしとせば外資の輸入も亦正貨其物を輸入するに非らずして生産の道具たる機械材料舟車の類及び生活資料其物たるは推知するに難からざる可し例へば砂糖會社に於て倫敦市場に於て社債を募集したりとせんか其大部分は製糖機械、工場の建築材料、レール等の實體となりて我國に輸入せらる可く同時に工場を建設し、機械を据附け以て砂糖製造の用意を整へ兼て製糖に着手して其製品が市場に賣却せられて以て翌年度の準備に取掛る迄の間會社の雇人、勞働者等を養ふに足るだけの生活資料なかる可らず、此生活資料と機械材料等が社債の實體を形作るものに外ならず、而して會社が最初其社債をば金錢の形に於て受取るは今日の經濟社界に於ては然かするの外なきが故なると金錢をだに所有すれば何時如何なる場所に於ても其好む所に任せ必要なる物資を購入するを得るが爲めのみ、されば會社は決して單純なる交換の媒介價格の寸度としての貨幣を取得

せんと欲するものに非ず、其欲する所は貨幣價值に依りて代表せらるゝ資本の實體に在り、斯るが故に外資の輸入とは事實物資の輸入に外ならざるなり。世間の外資輸入を論ずるもの多くは通貨の勃脹を云々し、通貨の勃脹は引きて物價の騰貴を來し、輸出を沮止して輸入を増加するに至る云々との説を爲せども斯の如きは外資の實體を見ずして唯其幻影に捕はれ外資を以て直ちに通貨と心得るが爲めかゝる推論に陥るものなり。外資の輸入は物品の購入なり、従て外資を輸入するもの有らば其政府たると民間の會社たると私人たるとを問はず、必ず物品の輸入は増加す可き筈なり。我國が日露戦争後連年輸入超過の繼續したるは畢竟他方に於て盛に外資を輸入したる其爲めにして少しも不思議とするに足らざるなり、故に向後輸入超過を防止せんと欲せば政府たると民間たるとを問はず外資輸入を防遏す可きなり、然らば何時にても輸出は輸入に超過するに至る可し、然れども是が爲めに民間經濟界は非常なる打撃を蒙らざるを得ざる可し、抑も經濟の要は生産を盛にして貨物の供給を豊富ならしめ人々をして物質界に最大の幸福を享得せしむるに在り、輸入の超過を變じて輸出超過と爲すが如きは經濟の本旨とする所

に非らざるなり。而して一國は其經濟發達の程度如何に依りて或は外資を利用して富源を開發するに専らなる時代あり、斯の如き時代には其國は必ず輸入超過國たる可く又既に外資を輸入するの必要なき時代に進まば其國は必ず從來借入れたる資本利用の收得を以て其利子を支拂ふに至る可く、斯の如き時代に於て其國は必ず輸出超過國たるに至る可く、更らに進んで外國に資本を供給する時代に達せば其國は再び輸入超過國たるに至る可し、要するに一國が輸出超過國たるや將た輸入超過國たるやは産業發達の程度如何に依て現はるゝ附隨的現象なりと云ふを得可し、然るに若し人あり此附隨的現象に全心全力を傾注し之を意の如くならしめんが爲めに主たる目的を忘却するもの有りたりとせば果して如何、然も吾人は滔々たる天下此主客顛倒、倒行逆施を主張するもの多きに對し殆んど嗔然たらずむば非らざるなり。

在外正貨維持の問題の如きも亦外資輸入に對する附隨的問題にして Secondary Importance のものなり、在外正貨の如き存するも可なり、存せざるも可なり、吾人は之に對して何等固執する所あるものに非らず、然れども外資が輸入せらるゝ以上は

其附隨的現象として正貨は常に海外に集積せらる可し、何となれば政府若くは民間に至て外資を募集するや、直ちに正貨の形式を以て之を内地に輸送することを爲さずして先づ以て之を募集地の銀行に預入れ、兩三年内に漸次資本の實體として之を我國に輸入す可きが故、其間我國若くは我國民の所有に係る正貨は海外に存在す可ければなり、而して毎年外資の輸入を繼續する場合には此種の預金は集積して巨額に達することある可きなり、故に在外正貨を全廢せんと欲せば、之れ亦外資輸入を防遏すれば、一朝にして其目的を達し得可きなり、誠に一舉手一投足の勞に過ぎず、然れども在外正貨の問題を解決せんが爲めに Primary Importance の問題を犠牲に供するが如きは我輩の取らざる所なり。

國際的財貨の流通が圓滑に行はるゝ以上は資本は利子の低き所より高き所に向つて移動するは自然の狀態にして決して怪むに足る可らず、之を沮害せんとするもの有らば經濟上の自由に反し自然の原則に背くものにして智者の事と云ふ可らず、故に我國に資本の蓄積尙ほ未だ少なくて其利子も從て高きに拘らず、歐米各國中には年々巨億の資本集積するものあり、其利子も從て低きものある場合

には其資本が我國に輸入せらるゝは當然なり、尙ほ比較的廉價なる英獨諸國の鐵器、工藝品等が輸入せらるゝと毫も異なる所あらざるなり。

我國に資本の集積せらるゝ高は尙ほ極めて遲緩にして一年二億内外に過ぎざる可しとは識者の概算する所なり、然るに歐米先進國に於ては資本の蓄積著しきものあり、スタテスト記者の計算に依れば英本國人の有する資本總額は千七百億圓にして、其中千億圓は所有者以外の人の利用する所に係り、更らに其中四百億圓は已に植民地及海外諸國に投資せられたり、尙ほ毎年の資本貯蓄額は四十億圓に上り、其中凡そ四億圓は永久に銀行者の掌中に入り、略二十億圓は國債、市債、會社銀行等の株式又は社債に投せられ、殘額十六億圓中の大部分は自家經營の下に在る事業を改良擴張せんとする實業家に直接箇人的に貸出され、其殘額は資本所有者自らの事業に投せらる可然らざれば、彼等の居住を建築し若くは之を粧飾するが爲めに費さるゝの常なり、次に佛蘭西國民の年々の資本蓄積高は二拾億圓にして、其約四割は年々海外市場に投資せられ、今日に至るまで斯くて佛蘭西は二百億以上の資本を海外に放資したるものゝ如し、獨逸國民の資本蓄積年額は今日略ぼ英佛

兩國民の中間に位し一年三十億圓を下らざる可しと云ふ、而して今日まで獨逸が海外諸國に投資したる總額は百六十億圓に達し毎年五億圓内外を外國に投下しつゝあり、茲に注意す可きは佛獨兩國に於ては國內の投資者に對して政府が常に周密なる注意を與へ且つ投資の方針を指導するの常にして此等の諸國に於ては政府當局者の好意を得ると否とは其資本の借入れに際し多大の影響を有することの之なり、以上の三國は世界に於ける資本供給國の重なるものなるが此外尙和蘭陀、白耳義、瑞西等も亦資本の蓄積少なからずして年々其一部を海外に放資しつゝあり、米國は一方に今も債務國たるに拘らず南米東洋諸國等に對しては却て資本貸出を開始しつゝあるを忘る可らず。

次に資本輸入國の重なるものと其金額とを擧ぐれば

合 衆 國	百二十億圓
加 奈 陀	七拾億圓
アルゼンチン	五拾億圓
ブラジル	三拾億圓

オーストラリヤ及
ニューゼーランド

五拾億圓

南亞植民地

四拾五億圓

露 西 亞

八拾億圓

スタテイスト記者は外資輸入國の一般的結果を述べて曰く、

We calculate that $\$$ 100 of capital supplied to a young country will after no great space of time increase the annual wealth production of that country by $\$$ 100 per annum. At the present time upwards of $\$$ 8,000,000,000 of capital has been supplied by the various lending countries to other lands, and the investment of this great sum has directly and indirectly, given an annual income to the borrowing nations of an amount nearly equal to the total sum invested.

こは少しく樂觀に過ぎたるやも知る可らずと雖も兎に角貸資國は之を國內に投下するよりも外國に出したる方利益なるが故外國に之を貸出す可く、借資國は之を外國に仰ぎたる方國民經濟上利益なれば之を輸入する次第にして要するに相互の利得に外ならず、吾人は日露戦争後眞の意味に於ける資本が各種の形式に依

り漸次我國に輸入せらるゝに至りたるを見て國民經濟の發展の爲め祝福しつゝありたる次第なりしに今や歐洲の大亂突發し其結果外資輸入の如きは當分絶對に望なきに至りしを深く悲むものなり然も資本は既に述べたるが如く極めて彈力性に富むものなるが故に今日此際我國民は一層奮發努力して富の生産に従事すると共に其生産したる富は少しにても餘分に之を資本たらしむるの覺悟なかる可らず吾人は茲に繰返して財貨の大部分は其所有者の意思の如何に依りて或は資本となり或は資本となることなしと斷言せんと欲するものなり。

歐洲大戦亂破裂前の英國外交

林 毅 陸

今回の歐洲大戦亂に於て英國の参加を見るに至りたるは、三個の事情に因る。第一、露佛二國就中佛國に對する友誼に顧み、名譽上の義務を重んじたる事、第二、白耳義の中立に關し、條約上之を保障せるの關係あり、白耳義王よりも切實に援助を求められたる事、第三、タイムスの所謂『自己保存の本能』より、袖手傍觀し難しと爲したる事、是れなり。此等の中、最後の者を以て最も有力なる原因と爲すは、固より言ふ迄も無し、英國は實に露佛二國が獨逸の爲に擊破せられ、三國協商の粉碎を來すを以て、自己の生存に至大の危険を及ぼすものと爲し、白耳義中立侵害問題發生せざとすも、猶遂に劍を抜かざるを得ざるの地位に在りたるなり。佛國に對する友誼